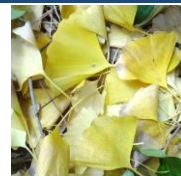


ベントグリーンを夏越しさせる9つのSTEP



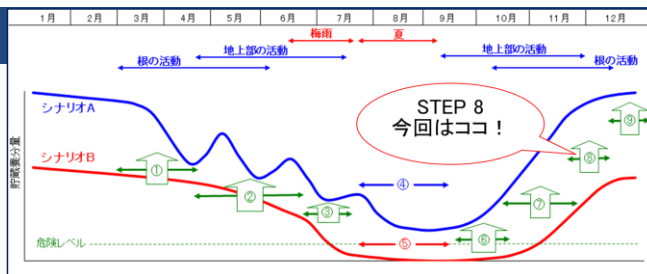
STEP 8 【晩秋】

「晩秋期施肥」: 来年へ向けた養分貯蔵の促進

- 気温は葉の生育適温より低くまで下がってきたが、地温はまだ根の生育適温範囲、という時期の対応です

気象・芝・土壌の状態

- ・ 気温の低下と共に葉の伸びは鈍化
- ・ 温度低下と共に呼吸も低下
- ・ まだ根の活動や光合成は続いている
- ・ 葉の伸びと呼吸という炭水化物消費が減るので
- ・ 貯蔵養分は最後の伸びを見せる



管理目標＝貯蔵養分の今年最後の蓄積を、晩秋期施肥で最大化する

翌春の動き出しの原動力となる貯蔵養分を貯めこむ「晩秋期施肥」の季節ですが、次のような注意点ががあります

(晩秋期施肥の詳細については、弊社ホームページの技術資料をご参考ください)

- ・ 葉が伸びないからと施肥を控えて、窒素・マグネシウムなどが不足し、光合成が低下していることがある。その解決には晩秋期施肥が有効だが、タイミングが早すぎると葉の生長が過剰になって、炭水化物の消費が増え、貯蔵養分の蓄積ができない。
- ・ 温度は刻々と下がり、光合成や根の活性も次第に下がっていく
- ・ 晩秋期施肥のタイミングが遅すぎると、光合成が落ちてしまい、炭水化物の蓄積ができない
- ・ 温度低下で根でのカリウム吸収が下がり、葉身中のカリウムが不足すると、気孔の開閉が鈍り、光合成が低下する
- ・ 晩秋期施肥のN・P・Kの量やバランスを誤ると、耐寒性が下がることもある

管理作業のポイント

晩秋期施肥のタイミングを見極め、窒素・マグネシウム・カリウム・鉄などのバランスを取って貯蔵養分の蓄積を促し、冬のストレスに備えることが、この時期のポイントになります。

【ポイント1】 晩秋期施肥のタイミングを見極める

- ・ 葉の伸びの落ち始め(日平均気温が10℃以下になってから3～5日)がベスト

【ポイント2】 光合成を高める

- ・ 酵素や葉緑素に必須な窒素・マグネシウム・微量元素を充分に与える

【ポイント3】 炭水化物代謝を高め、貯蔵養分蓄積を促す

- ・ 糖からフルクタンへの合成にはカリウムが必要

【ポイント4】 低温・乾燥・凍結などの、冬のストレスに備える

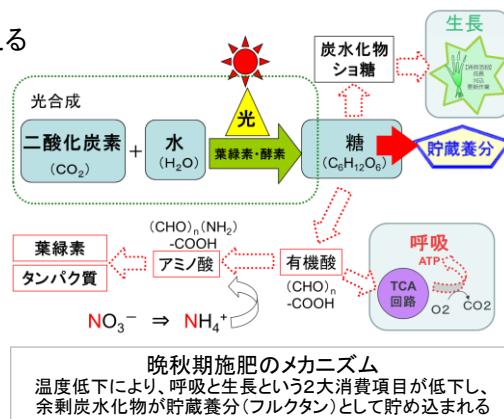
- ・ 浸透圧調節や気孔開閉には、カリウムが必要
- ・ 冬季の耐寒性アップと強光障害の防止には、鉄が必要
- ・ フルクタンの蓄積は、耐寒性・耐凍性のアップにもつながる

【ポイント5】 晩秋期施肥の量・バランス・養分形態を見極める

- ・ 窒素・マグネシウムを充分に、カリウムも多めに
- ・ 根の活性が落ち始めているので、吸収しやすい形態で与える
- ・ 窒素・カリウムに対してリンが過剰になると耐寒性が落ちる
- ・ 適切な晩秋期施肥が実施できたかどうか、実施後のフルクタン値や刈草の量で確かめる(刈草量が増えずに、フルクタンが増加していれば成功)

【葉身分析目標値】 ※葉身分析と貯蔵養分フルクタンについてはSTEP 0【総説】をご参照

- ・ 無機養分は「秋」と同レベルを維持。
フルクタンは20mg以上、最後の伸びを促す。



この時期のおすすめ資材・機材

晩秋期施肥の例:

現在の葉身中の無機養分含量と、温度・地域・ベントグラスの状態に合わせて、資材を選択します。

【粒状肥料で行う場合】

・ニュートリDG (DGオータム または DGベース)

【液肥で行う場合】

・The クラシック (3~5週間ごとに反復)

【特に寒さの厳しい地域】

・ニュートリDG DGベース + フェロメック

【カリウムの補給】

・シェイプアップ、K-ビルダー

【マグネシウム・微量元素・アミノ酸類の補給】

・シェイプアップ、Foltec The ZEN

【鉄剤で耐寒性アップ・強光障害回避・迅速な色出し】

・ユニレイト、フェロメック

| | | 芝草の生育温度(°C) | | | | | |
|-----|---|-------------|-------|----|-------|-------|----|
| | | 暖地型芝草 | | | 寒地型芝草 | | |
| | | 最低 | 最適 | 最高 | 最低 | 最適 | 最高 |
| 地上部 | 緑 | 18 | 27-32 | 49 | 5 | 18-24 | 32 |
| | 黄 | 10 | 24-29 | 43 | 0.5 | 10-18 | 25 |
| 地下部 | | | | | | | |

浅野・青木編「芝生と品種」1998ソフトサイエンス社より

地上部と地下部では最適な生育温度が異なる。
これが晩秋期施肥の理論的根拠になっている。

晩秋期施肥にも最適 分散性粒状肥料 ニュートリDG

DGオータム

成分:10-5-25+Mn:0.50%+Mg:0.50%
窒素成分の配合比率は50%が緩効性の
ミューテックで、残り50%は即効性。
特にカリウムの比率を上げたV字型で、
晩秋施肥に利用可能です。

DGベース

成分:18-9-18+Mn 0.14%
窒素成分は60%がミューテックで、
緩効性と即効性とのバランスに優れ、
多くの場面で効果的に使用できます。
窒素、カリの高いV字型で全シーズンに
利用可能です。

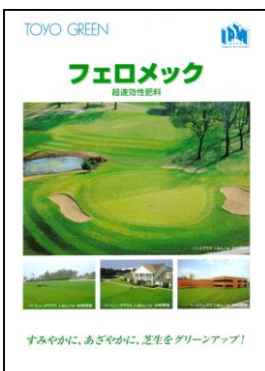


液肥での晩秋期施肥に The クラシック

成分:18-3-6+微量元素

芝の成長バランスを考えた肥料です。
環境変化への抵抗力を高めるカリウム
を多く配合し、グリーンアップを促す鉄
を含んでいます。
他の液肥に比べてグリーンアップ効果
が高く、窒素成分の40%がメチレン尿
素なので効果が長続きます。

晩秋期施肥の時期であれば、葉色の
ピークは施肥10日後程度で、20日を過
ぎた頃から徐々に色あせていきます。
肥効は約30日持続します。



寒冷地でも素早い効果、 即効性液肥 フェロメック

成分:15-0-0+イオウ4%+鉄6%
ベントグラスの素早いグリーンアッ
プに最適です。短期間で芝の生
長量の急激な増加をさせないで、
緑色を出すことができます。

低温条件でも効果の発現が早く、
また耐寒性のアップに寄与する鉄
も含有しています。
晩秋期施肥の補助に最適です。



晩秋期施肥に重要な カリウムとマグネシウムを しっかり補給 シェイプアップ

成分:0-0-26-10
水に溶けやすく速効性の弱アル
カリ苦土入りカリ肥料です。炭酸
ガスを含み、炭酸同化作用を促
進し、また、重炭酸イオンが難溶
化した肥料養分を有効化します。

晩秋期施肥の命となる光合成を
促進し、炭水化物の代謝を維持。
養分貯蔵の最後の一押しに。

→ 「STEP 9」に進む

※葉身分析目標値:過去の分析結果から弊社が独自に設定した、時期毎の暫定目標値です。随時改訂しています。

東洋グリーンはベントグリーンの夏越しを応援します



東洋グリーン株式会社

本社 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-33-8 浜町アクセス
TEL 03-3249-7731 FAX 03-3249-7781

東日本営業部 TEL 03-3249-7735 大阪支店 TEL 078-903-6776
名古屋支店 TEL 052-505-8880 九州支店 TEL 0942-43-7234

ホームページ <http://www.toyo-green.com/>

お問合せ info@toyo-green.com